

イチジクの病害虫—I
(病虫害講座—48)

カミキリムシさん登場

木村 裕

イチジクは好物ですか？ 昔は何処にでも植わっているごくありふれた果樹で、果樹の中ではかなり地位は低かったようです。しかし、今では高級果樹に昇格したようで、我がワイフも好物ですが価格が高くて手がでないようです。昔のイメージが強すぎ。

確かに価格は高くなりましたが、果実は大きくなり、味もよくなりました。害虫にとっては、果実が大きくなろうが、味が変わろうがあまり気にしていません。

【カミキリムシ】

イチジクの木を植えて4~5年すると、必ずといってよいほど幹から褐色~暗褐色の木くずがこぼれ出てきます。これは通称テッポウムシ(カミキリムシの幼虫)が幹の中にすみついていて、主として幹の材の部分を食べるため、枝がもろくなったりはしますが木全体が枯れることは少ないです。



イチジクはクワカミキリとキボシカミキリの2種類のカミキリムシの餌場となっています。これら2種の虫はクワも好きな食べ物ですが、養蚕業が衰えてクワの栽培面積が減ったことで大きな打撃を受けたと虫がこぼしています。食べ物を変更すればよいのですが、どうもカシやサクラなどは口にあわず困っています。

昆虫は、それぞれに食べ物を決めていて餌の取り合いがうまく調整されていますが、クワのように人間の都合で減少させられることもあります。



クワカミキリ



キボシカミキリ

成虫は大きくて触角が長い甲虫ですので、子供たちの格好の獲物になります。クワカミキリは長さ5センチ前後、黄褐色。キボシカミキリは長さ3~4センチ、灰色で黄色の斑紋がいっぱいあり、触角が非常に長いです。成虫は柔らかいイチジクの樹皮を浅くかじるため、今年伸びた枝の表面がささくれだちます。

【アザミウマ類】

厄介な害虫で、果樹園ではなく、流通上でも問題となっています。美味しそうで見栄えのある果実を買っていざ食べようとした時に事件発生です。果実の中心部が黒褐色に変色しています。気にしないで食べるか、その部分を切り取るか、すべて廃棄するかは皆様方の判断してください。これはイチジクが開花したときに小さな虫が侵入して汁を吸ったために起こりますが、外観上はまったく異常がないので困ります。

